



2026 年 10 月 15 日

各 位

会 社 名 M I Tホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 増田典久
 (コード：4016、東証スタンダード)
問合せ先 常務取締役経営推進センター長 三方英治
 (TEL. 043-239-7252)

連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は 2026 年 10 月 15 日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、2026 年 1 月 14 日の 2025 年 11 月期決算発表時に開示した 2026 年 11 月期（2025 年 12 月 1 日～2026 年 11 月 30 日）の業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

1. 当期の連結業績予想数値の修正（2025 年 12 月 1 日～2026 年 11 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 （ A ）	5,700	285	277	172	86.17
今 回 修 正 予 想 （ B ）	4,956	196	194	110	55.18
増 減 額 （ B － A ）	△ 743	△ 88	△ 82	△ 61	－
増 減 率 （ ％ ）	△ 13.0	△ 31.0	△ 29.7	△ 35.8	－
（ご参考）前期実績 （2025 年 11 月期）	5,117	169	162	94	47.69

2. 修正の理由

当連結会計年度の業績につきましては、システムインテグレーションサービスにおいて、公共サービス領域が概ね当初計画どおりに推移し、金融サービス領域が当初計画を上回る見込みとなった一方、通信サービス領域における主要顧客の方針変更に伴う要員計画の縮小や、戦略プロジェクトの立上げ及び増員計画の延伸等が影響したことから、売上高は前回発表予想を下回る見込みとなりました。

また、DX ソリューションサービスにおいても、デジタルマーケティング及び図面 DX ソリューションにおける自社プロダクトの販売が当初計画を下回ったことや、クラウドシステムソリューションにおける一部案件の売上寄与時期の後ろ倒し等により、売上高は当初計画を下回る見込みであります。

一方、利益面につきましては、エンジニアの人件費や外部人材等の調達コスト、クラウドシステムの維持コスト等が上昇したものの、システムインテグレーションサービスにおける技術者単価の上昇や、DX ソリューションサービスにおけるストック売上の拡大等により、売上総利益率は前年同期を上回る水準で推移しております。これらのコスト上昇を吸収する収益構造の改善が進んでいることから、営業利益は売上高の計画未達により前回発表予想を下回る見込みであるものの、利益面への影響は一定程度抑制される見込みであります。これらの結果、前回発表の業績予想を下回る見込みとなりましたので、通期の業績予想を修正いたしました。

なお、サービス別売上高予想の修正については、以下のとおりであります。

(サービス別の売上高予想)

	前回発表 予想 (A)	今回修正 予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率	(ご参考) 前期実績	(ご参考) 増減額	(ご参考) 増減率
売 上 高	百万円 5,700	百万円 4,956	百万円 △743	% △13.0	百万円 5,117	百万円 △161	% △3.2
システムインテグ レーションサービス	4,764	4,190	△573	△12.0	4,378	△188	△4.3
DX ソリューション サービス	936	766	△169	△18.1	739	26	3.6

(システムインテグレーションサービス)

公共サービス領域につきましては、主要顧客向けのインフラ構築及び運用・保守サービスが堅調に推移しており、概ね当初計画どおりに進捗する見込みであります。

金融サービス領域につきましては、生命保険・損害保険及び証券関連のプロジェクト拡大に加え、クレジットカード基幹系システムの大型刷新プロジェクトへ新規参入したこと等により、前期比では減収となるものの、当初計画を上回る見込みであります。

エネルギーサービス領域につきましては、電力会社向けシステム開発支援が東日本及び西日本の各拠点で拡大し、前期比では大幅な増収を見込んでおります。一方、当初計画で見込んでいた要員規模までの拡大には至らなかったことから、当初計画を下回る見込みであります。

通信サービス領域につきましては、主要顧客の方針変更に伴う要員計画の縮小に加え、一部プロジェクトにおける品質対応を優先したことによる案件拡大機会への影響等により、当初計画を大きく下回る見込みであります。

運輸・物流サービス領域につきましては、既存顧客向け案件が堅調に推移し、前期比では増収を見込んでおります。一方、当初計画に織り込んでいた一部大型案件について、本格的な業務拡大の時期が来期以降となる見通しとなったことから、当初計画を下回る見込みであります。

また、戦略プロジェクトの立上げ及び増員計画の延伸や、これに伴うパートナー企業要員の退出等により、要員体制の拡充が計画どおりに進まなかったことに加え、主力プロジェクトにおいても、顧客側の体制変更等に伴う計画見直しにより、当初想定していた担当領域の拡大には至らなかったことが売上高に影響しております。

なお、これら当期の売上高に影響した要因については、要員体制の再構築やプロジェクト計画の見直し等を進めた結果、現時点では概ね解消しており、翌期以降の事業展開に継続的な影響を及ぼすものではないと見込んでおります。

(DX ソリューションサービス)

デジタルマーケティングにつきましては、デジタルブック制作・配信プラットフォーム Wisebook において、Wisebook-Cloud 及び Wisebook-ONE を中心とするストック型売上は安定して推移しております。一方、当初計画において売上拡大を見込んでいたバージョンアップ案件や Wisebook PVS（プライベートサーバ）等の新規案件については、受注時期や案件規模が当初の想定を下回り、当期売上への寄与が限定的となったことから、デジタルマーケティング全体の売上高は当初計画を下回る見込みであります。

図面 DX ソリューションにつきましては、原材料価格の高騰やナフサ由来の建築資材の供給不足に伴う大規模修繕工事の延期等の影響を受けていた足場図面等の CAD 製図サービスについて、夏の繁忙期に向けて市場環境が正常化し、延期となっていた案件を含め受注が拡大するなど、足元では回復基調で

推移しております。一方、DynaCAD シリーズについては、DynaCAD CUBE Ver.4 のリリース等により新規ユーザーの獲得に取り組んだものの、新規受注が計画を下回ったことから、売上高は当初計画を下回る見込みであります。

クラウドシステムソリューションにつきましては、食事予約クラウドシステム The Meal の新規受注は順調に推移したものの、一部案件について受注から導入・稼働開始までの期間が当初計画より長期化したことにより、運用開始後の決済額に応じて継続的に発生する課金収益の当期売上への寄与が限定的となりました。一方、GIGA スクール支援業務における新規案件の獲得に加え、校務支援業務への展開や Google Workspace の構築実績を活用した公共分野への事業展開が進展しております。しかしながら、中小規模事業者向けシステム開発の減収を補うまでには至らず、売上高は当初計画を下回る見込みであります。

今後につきましては、既存ビジネスにおける収益性のさらなる向上に加え、システムインテグレーションサービスでは、企画・要件定義等の上流工程を担うプライム企業からの受注拡大を進めるとともに、技術者のスキル向上及び最適配置を通じて、より高付加価値な業務へのシフトと技術者単価の上昇を図ってまいります。

また、AI を活用した開発工程の効率化による生産性向上及び開発コストの抑制を進めるとともに、DX ソリューションサービスでは、事業ポートフォリオの見直しを進め、自社プロダクトを中心とした事業へ経営資源を集中し、AI を取り入れた自社プロダクト・サービスの機能強化や新たなサービスの創出に取り組んでまいります。あわせて、継続的な収益が見込めるストック型ビジネスの拡大を図り、既存事業の収益力向上と新たな事業領域の開拓を両立させることで、収益基盤の強化に取り組んでまいります。

3. 配当予想について

配当につきましては、今回の業績予想の修正による変更はなく、当初の計画どおり 1 株当たり 30 円を予定しております。当社は株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置付けており、今後も安定的な配当を継続することで、還元を実現してまいります。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により異なる可能性があります。

以上